

# 新しい左京区基本計画づくり



発行日 平成22年12月15日  
発行者 左京区役所区民部総務課  
Tel 771-4235

ニュースレター 第13号

## 左京区基本計画（第2期）（案）へのご意見ありがとうございました。

左京区役所では、平成23年度から10年間の指針となる左京区基本計画（第2期）の策定に取り組んでいます。

策定に向けては、「左京区住民円卓会議」と「次代の左京まちづくり会議」において議論を重ねてきました。7月には計画素案への意見募集を、11月には計画素案を具体化、充実させた計画案への意見募集を実施しました。ご意見をお寄せいただきました皆様方には御礼申し上げます。

この度、意見募集の結果の概要がまとまりましたのでお知らせします。

### 1 意見募集の概要

#### 募集方法

左京区役所、出張所、区内の大学、区内の主な公共施設での配架、左京区役所ホームページに掲載、市政協力委員への送付等

#### 募集期間

平成22年11月1日～11月30日

#### 回答数

37人（114件）

（郵送、FAX等35人・ホームページ2人）

・男女構成 男性 17人（45.9%）

女性 18人（48.6%）

無回答 2人（5.4%）

・年齢構成 20歳未満 0人（0.0%）、20歳代 1人（2.7%）

30歳代 1人（2.7%）、40歳代 5人（13.5%）

50歳代 2人（5.4%）、60歳代 17人（45.9%）

70歳代 6人（16.2%）、80歳以上 3人（8.1%）

無回答 2人（5.4%）



### 2 意見募集の結果（概要）

#### 〔質問項目〕

- ◆左京区基本計画（第2期）（案）の目標や取組指針、取組内容、具体的な取組例について、ご意見をお聞かせください。

#### 〔主なご意見〕

- 左京区の特徴、魅力をうまく表現した目標、取組指針、内容になっている。10年後のすがたも明確に示されており、分かりやすい計画となっている。
- 行政だけでやれることは限られている。区民と行政等が協働ですること、区民一人ひとりができることも記載していることはよいことだと思う。

- 左京区は緑が豊かなので、その自然を生かして日々の生活や仕事の中に使っていくことはとてもよいことだと思う。
- 左京区は、日本全国の中でも最高の文化を持っている土地であることを考えて取り組んでほしい。
- お年寄りや子どもにやさしい区の運営を目指し、大規模集約型でなく、住民に近い範囲の小さな単位の中で、行政サービスを充実してほしい。また、文化の保存・継続・発展のために、住民の身近な文化活動の拠点となる公共施設の充実を図ってほしい。
- 左京区の住民の暮らしを基本に、住民がこれまで培ってきた静寂で落ち着いた京都の特色を活かした観光を考えてほしい。また、住民が気軽に文化活動を展開できる施設を設けてほしい。
- 観光客を中心に考えた計画ではなく、住民のための計画であってほしい。住民が自分たちのまちを愛し、楽しく暮らせてこそ、観光客をもてなすことができる。住民の意見を尊重した、住民のための基本計画をつくることが重要である。
- 基本計画は、その内容を実現することを前提として策定されるべきである。行政や区民は、自らが計画を実行することを考えて計画策定に取り組む必要がある。
- 多くの取組内容、具体例が記載されているが、それぞれに対し、誰が何をしていくのかをより具体的に計画し、行政と区民が共有しなければいけない。今の計画案ではそこまで見えないので、実効性があるかどうか分からない。
- 単に政策を並べるだけではなく、地方自治の原点である住民自治を今後10年かけて、この左京区でどのように充実していくか、学区における自治会組織や各種団体等への行政のフォローの方法等について検討してほしい。

〔まとめ〕 計画の目標や取組については、おおむね左京区の魅力や特性を踏まえたものとなっているとのご意見をいただきました。また、基本計画の内容を実現することが重要である、区民の暮らしを中心に観光等を考えていくべきとのご意見もありました。

## 〔質問項目〕

- ◆地域別の目標についてご意見をお聞かせください。

## 〔主なご意見〕

- それぞれの地域別にその特色と目標について述べられており、わかりやすいと思う。
- 左京区は南北に細長く、地域によって特色が大きく異なっているため、地域別に目標を掲げることは適切であると思う。中部北・中部南・南部と、北部地域とでは人口問題をはじめ地域の格差が大きい。そうした課題の解決に向けて、この10年間で取り組んでほしい。
- 地域別の目標はどれも重要であると思う。特に、地域の伝統行事については近くに住んでいても知らないことがたくさんあるので、区民のための情報提供や参加の機会がもっとあればよいと思う。
- 北部地域（花脊峠以北）について、高齢化が進む中、自然・環境・農林業・伝統文化を守り育てることは大変困難な状況である。若者が定住できるような何らかの施策が必要であると思う。

- 中部北地域は左京区役所の新庁舎の移転により、行政の中心になるため、今まで以上に北部地域と行政とが連携して積極的に取組を進められるよう、働きかけてほしい。一方、南部地域における活動については、みやこめっせ等でのイベントだけでなく、広く周辺の住民や大学を巻き込んで、広く活動を展開してほしい。
- 南部地域には外国人居住者が多いので、外国人の方々との共生に向けた施策が必要であると思う。
- 南部地域は商業地化せずに、学術・文化・歴史・自然環境の重点地区とするべきである。現在ある多くの観光地や文化施設を更に充実させて、静寂で落ち着いた歴史ある地区にしてほしい。
- 観光客を意識した言葉が多いので、もっと住民中心の目標を立ててほしい。住民がいきいきと暮らすことができれば、後のことはついてくる。
- 地域ごとの目標を立てても、それがどのように活用されていくのかが分かりにくい。

〔まとめ〕左京区は南北に細長く地域によって特色が異なっており、地域別に目標を掲げることは妥当とのご意見をいただきました。特に北部地域では若者の定住促進に向けた取組が必要とのご意見がありました。また南部地域では、現在の環境を守りながら、住民が暮らしやすいようなまちづくりを進めてほしいとの要望をいただきました。

#### 〔質問項目〕

- ◆左京区基本計画（第2期）（案）の内容を実現していくために、区民の皆様が各自で又は協働で取り組めることや、アイデア等をお聞かせください。

#### 〔主なご意見〕

- 左京区は大学が多いので、若い学生の力を地域づくりに生かせるのではないかな。
- 単なるボランティアだけでなく、仕事として利益を生み出すようにすれば、皆進んで行動すると思う。
- 若手の推進リーダーを育成し、地域で活動を進める息の長い取組が必要だと思う。
- 「自然との共生」を実現していくために、地域内の木の種類、野鳥の種類などの地図、看板などをつくれればよいと思う。
- 外国語を勉強する機会があれば、まち中で外国人と接するのが楽しくなると思う。
- 「まちなかを歩く日」のような取組をすれば、地域がまとまって一定の目標に向けた取組みをすることができるのではないかな。
- 左京区の文化や美しい自然を守る活動を集約する場、地域住民が集まり交流できる公的な場として、現在の区役所庁舎を有効に利用していくべきである。
- 現在の区役所庁舎を、文化の資料室として常設したり、研究室に利用してもらうなどして、広く開放すればよいと思う。
- できる人が、できる時に、できる事を行うことが大切だと思う。
- 地元の各種団体の相互連携を強めて、共同事業を推進すべきだと思う。
- 退職した高齢者を男女とも、地域の交流の場にもっと引き出させることが重要だと思う。できるだけ低料金で、高齢者のコミュニケーションの場づくり、老人の地域の集いの場をいくつも広げるとよいと思う。各学区単位でも奨励されれば、地域の連携はもっと図れると思う。

〔まとめ〕若者からお年寄りまで、地域のひとが交流に向けてのアイデアをいただきました。自然との共生、外国語の勉強、大学へのサポート、文化芸術施設の充実など、左京区ならではの取組も多数いただきました。また、区役所の移転後に現在の庁舎を交流拠点として活用して欲しいとの要望が数多く寄せられました。

### 〔質問項目〕

◆その他、計画全般について、ご意見があれば、お聞かせください。

### 〔主なご意見〕

- 様々な意見をひとつにまとめるのは大変だと思うが、住みやすいまちにすることが一番大事である。
- 一般的に計画というと文字ばかりで堅苦しく読んでもらいにくいと思う。最終的にはイラストや写真等も掲載して、できるだけ簡潔に読みやすく親しみやすい計画として構成していくべきだと思う。
- 高齢者や障害者が安心して暮らせるよう、交流を深めるとよいと思う。また、左京区の文化を学ぶ機会をつくとよいと思う。
- 10年を区切りとした計画の立派さに感激した。しかし、具体的で細やかで濃い内容のものでも、少しずつ実行できるかが問題である。計画だけに終わらないようにすべきである。
- 左京区は南北の道路網の整備が遅れている。バス路線等、左京区の公共設備への交通網を考えてはどうか。また安全や防犯についての記述が少ないと思う。
- 京都市の財政状況をふまえ、計画の中で検討されている事業が住民にとって本当にプラスになるのか、役に立つのか十分な精査が必要である。将来子どもたちに借金を負担させてはいけない。
- 計画の中心に、住民本位に考えて作り上げる視点が欠けているのではないか。観光客や海外からの来客を、こころをこめてもてなし、滞在中気持ちよく過ごしてもらえよう配慮するのは当然のことであるが、まずは区民が快適に過ごせる環境づくりが大切である。特に今後の少子高齢化社会を考えて、住民が安心安全に生活できる環境づくりが最優先されるべきと考える。
- 高齢化が進んでいるので、日々の暮らしが充実できるような提案をしてほしい。説明会を小規模で開催するなど、区民への情報提供を徹底してほしい。

〔まとめ〕新しい左京区基本計画の策定に当たっては、少子高齢化社会の到来を見据えて、区民の暮らしの充実を最優先するとともに、基本計画の取組内容を少しずつでも実行することが重要である等、様々なご意見がありました。また、イラストや写真等も交えて、誰もが読みやすい計画冊子にしてほしいとのご意見をいただきました。

数多くのご意見をいただき、ありがとうございました。